

はちの医師会より

NO. 648

令和 5 年 6 月 20 日

八戸市医師会



巻頭言 若者を雇用するブランド病院を作る

(表紙題字：小坂 康美)

目 次

表紙絵解説	大池 薫 ..	2
☆巻頭言☆		
若者を雇用するブランド病院を作る	今 明秀 ..	3
令和5年5月定例理事会		5
☆学 術☆		
Diabetes Update in 八戸		17
第652回八戸耳鼻咽喉科医会学術講演会		19
第660回八戸胸部疾患懇話会		20
HACHINOHE 骨粗鬆症連携セミナー		22
第624回八戸胃腸研究会		23
第290回青森県南皮膚科医会学術講演会		25
第9回青森県急性期脳梗塞血管内 治療ネットワーク(A-NET)研究会		26
☆臨床検査・診療メモ☆ 難聴と聴神経腫瘍		29
☆倶楽部だより☆		
八戸市医師会ゴルフニュース(第2報)		31
人・ひと	林 彰仁 ..	33
ドイツ留学思い出昔話36. 所変われば品変わる(4) (結婚後の女性の「姓(氏)」の変更は?)	橋本 功 ..	36
研修～リレー日誌～		38・39
八戸市医師会誌投稿規定		40
事務局日誌メモ		41
行事予定		41
八戸市休日夜間急病診療所利用状況		41
編集後記		42

表紙絵解説

雨の日でなければ、見られない景色があります。2階のcafeからハナミズキの花が咲く頃、行き交う色とりどりの傘を撮りたいと以前から思っていました。

今年やっと、その願いが叶いました。

思うように色とりどりの傘とは、なりませんでしたが、その時に撮った一枚です。

コーヒーを飲みながら、行き交う人々の傘を眺めるのも、楽しい時間でした。

(大池 薫)

巻 頭 言

若者を雇用するブランド病院を作る

八戸市立市民病院 事業管理者

今 明 秀

自分の実力が足りずに失った命がたくさんありました。倉石村診療所の胃がん見逃し、青森県病で抗がん剤の副作用、大間病院で手術後の合併症、川口市立医療センターで子供の交通事故、多くの救えたはずの命がなくなりました。私以外が担当医であったら助かった患者たちです。このような不完全な私ですが、県南の50万人の命を守る八戸市立市民病院の事業管理者(CEO)になりました。もっと適切な人事があったかもしれないのに、私がこの特別職の指名をいただきました。私はこれをプレゼントだと思い、ありがたく頂戴しました。八戸市長からいただいたこのギフトに対するお礼を市民にどのようにお返しするかを考えています。

若者が都会へ流出し、人口が減り続ける八戸市に、流出を食い止めるには、若者が残りたい職場が必要です。分娩数が減り、子供が減る八戸市では、生まれる子供を増やす必要があります。私が八戸市立市民病院のCEOとして市民にお返しできることはこの対策かもしれません。

具体的には八戸市立市民病院が若者をたくさん雇用できる八戸市最大の企業になることです。医療職を志望する地元高校生を増やすことから始めます。水野豊院長をはじめ病院職員と力を合わせて病院のブランド力を高めて、輝く病院にすることが必要です。都会と八戸市立市民病院を比較しても、若者が八戸を選択するようになる。都会から逆に若者が八戸に集まる。さらに、これまで都会へ流出していた青森県の若者が八戸に戻って来る。しかし医師不足と看護師不足にあえいでいる当地域でこれを実現させることは容易ではありません。もし実現できたら、八戸市の活性化だけでなく周辺の地域、例えば倉石や田子にも波及効果が出ます。若者が八戸市で働くなら倉石や田子から通えます。周辺町

村での営みが継続できます。児童数減で学校がなくなる現実を回避できるかもしれません。

現在、病院およびその周辺の企業には様々な職種の人間が働いています。さらに職種を拡大し、院内職員及びその周辺で働く人を増やすのです。そして彼らの出会いの場を創出し、結婚を奨励し、妊娠出産を応援したいです。産休育休も容易にとれるように余裕を持った人員配置ができる企業になりたいです。

磁石が吸い寄せるように人を吸い寄せる病院をマグネット病院と呼びます。その波及効果は周辺の病院や企業や商店、バス、タクシー、空港、駅、ホテル、歓楽街、学校にも好影響が及びます。マグネット病院になるには、離職率を減らすことから始まります。その先に人員増と人材の定着があります。離職率を減らすには当たり前の実行から始まります。その過程には図(P80)(参考 熊本大学医学部附属病院)のような様々な戦術が必要です。経営の改善は必須です。幸い先代の三浦一章事業管理者は、超人的な戦略で135億円赤字の病院を黒字に転換させました。そして13年連続黒字を達成しています。当院では現在、診療単価を増やすために、在院日数の短縮を図っています。そのためには、クリニカルパスの適応率を40%台から60%に高めることを目標としています。在院日数短縮が実現すればDPC特定病院群に移行でき、経営に大きなプラスとなります。

私が市民にお返しできるのは、ブランド力があるマグネット病院をつくり、職員数を増やし、夢が持てる社会を築くことです。

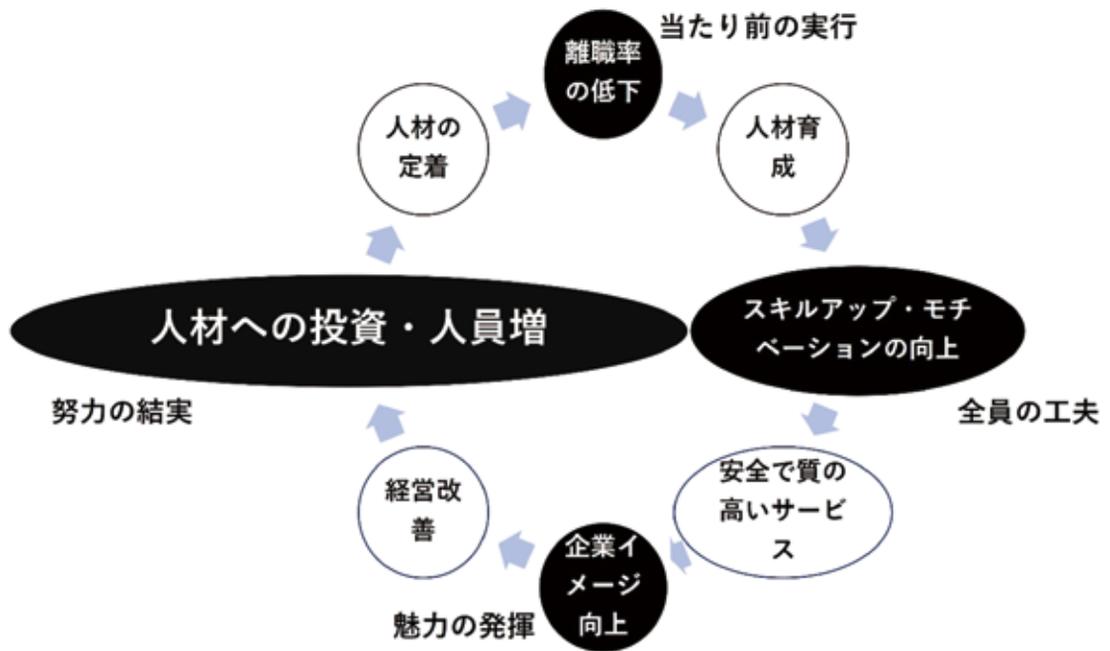


図 参考 熊本大学医学部附属病院